縁日ゲームの様子

花園ぷらす

学生

豊橋・花園商店街に貢献

地域貢献事業

第2回

昨年11月に10年間の活動に幕を下ろした「花園ぷらす」。最後に企画したマルシェは、商店街だけでなく、地元の老舗企業や社会福祉法人、他の地域貢献事業の団体にも協力してもらい、恩返しのイベントになった。

2013年に発足し、豊橋駅から徒歩10分ほどにある花園商店街のにぎわいづくりに尽力してきた。商店街の倉庫を使ったお化け屋敷は夏の恒例行事になり、2時間待ちの行列ができるほどの大人気企画に成長。豊橋市制110周年では、道でちくわ110本を一斉に焼くイベントを成功させた。学生らしい工夫を凝らした催しで、店主の高齢化や空き店舗が増える商店街を盛り上げた。このたび、商店街の一部区域で再開発の計画があることから、活動にピリオドを打った。

「これまで商店街の方々が、わりと自由にやらせてくれて協力してくれた。自分たちができる最大限のイベントを行い、『ありがとう』を伝えたかった」というメンバー。最後のイベントでは、閉店する店のシャッターや店内に子どもたちがペンキで絵を描き、変わりゆく商店街を彩った。

全国でも、シャッターの閉まった商店街は地域課題の一つになっている。一方、商店街の可能性について、代表の2年、鵜澤咲月さんは「いろんなお店があって、いろんな人が楽しめて、買い物ができる魅力的な場所。また、地域の大部分を占める商店街が活性化したら、まちも少しずつ活気づくし、まちづくりの拠点にもなるんじゃないかなと思っています」と期待する。

イベントの準備をする学生

イベントだけに人を集めるのではなく、その後の販売促進につなげることを意識して活動を続けてきた。「まちづくりは地道なので、すぐには成果が出ないし、大変なことだと今回のイベントを通じても感じました。でも、長期的な目で見たときには解決しなければならない問題であり、地道に計画的にやっていくからこそ、成果が出るものかなと思っています。この活動を通じて、将来につながる経験ができました」と鵜澤さん。関わってきた学生たちの思いを背負い、花園商店街は再出発する

（飯塚雪）

※協力・愛知大学